

レジオネラ症の患者発生状況

レジオネラ症は、*Legionella* 属菌が原因で起こる感染症の総称で、在郷軍人病(レジオネラ肺炎)とポンティアック熱が主要な病型です。レジオネラ属菌は、本来土壌細菌ですが、土壌や河川などの自然環境の他、冷却塔、給湯系、循環水を利用した風呂などの温かい人工水環境にアメーバを宿主として増殖することが知られています。患者から最も多く検出されるレジオネラ属菌は *L. pneumophila* で、1~15 の血清群に型別されており、冷却塔では血清群 1,7 が、温浴施設では血清群 4,5,6 の検出が多いことが報告されています。レジオネラ症は、腐葉土を感染源とする事例のほか、公衆浴場や、加湿器等を原因とする集団感染事例の報告もあり、死亡例も報告されています。

感染症法に基づく届出は、全国の 2007 年で 667 例(速報値)、埼玉県では 31 例の届出がありました。2008 年はすでに全国で 789 例(第 1 週~第 46 週まで)、埼玉県では、肺炎型 39 例、ポンティアック型 7 例の計 46 例(第 1 週~第 47 週まで)と昨年を上回っています(表-1)。

県内の患者発生は、年当初から多く、第 5 週から 7 週連続で、第 42 週以降は 6 週連続で届出がありました(図-1)。感染経路として、入浴施設の利用などが推定されていますが、現在まで特別養護老人ホーム入所者の 2 例を除き患者間で際立った共通性は認められていません。感染源特定のためには患者分離菌株と環境由来菌株間の血清群別の他、遺伝子解析が役立つことも在ります。今後とも患者発生報告と患者分離株の提供等原因調査へのご協力をお願いします。

表-1 病型別・年齢階級別レジオネラ症届出数(埼玉県・各保健所：第 1 週~第 47 週)

保健所	肺炎型	ポンティアック型	計	年齢階級										
				20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~89	90歳以上		
全 県	39	7	46	2	1	5	2	7	13	9	6	1		
川 口	6	1	7	-	-	-	1	2	4	-	-	-		
朝 霞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
鴻 巣	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-		
所 沢	4	-	4	-	-	-	-	-	2	1	1	-		
東松山	2	-	2	-	-	1	-	-	1	-	-	-		
秩 父	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
本 庄	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
熊 谷	6	1	7	-	-	-	-	1	2	2	2	-		
加 須	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
春日部	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
越 谷	2	1	3	-	-	-	-	1	-	-	1	1		
幸 手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
坂 戸	5	4	9	1	-	1	-	1	2	3	1	-		
川越市	5	-	5	-	-	1	-	-	2	2	-	-		
さいたま市	6	-	6	-	1	2	-	1	-	1	1	-		

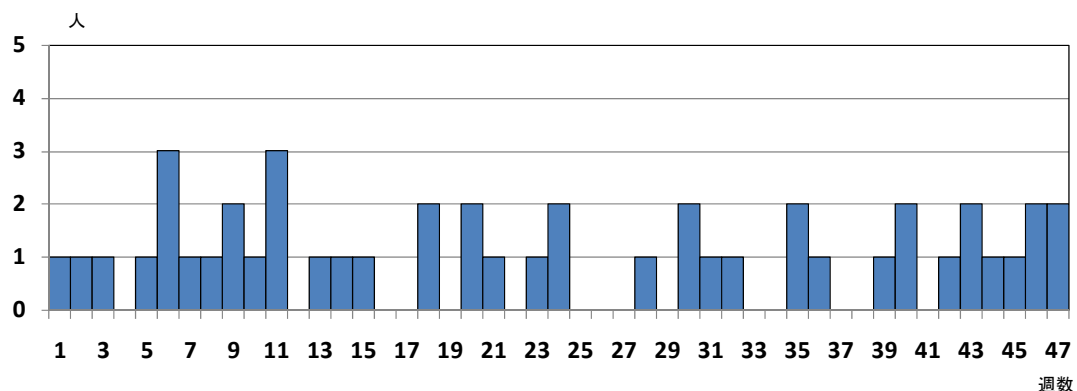


図 1 週別レジオネラ症届出数(埼玉県：第 1 週~47 週)